

「地域課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
江の川三川合流部における洪水流・河床変動予測モデルと背水域を含む本・支川河道が洪水流の伝播・変形に与える効果の定量化に関する研究(研究期間：H26年～H28年)	中央大学 竹村 吉晴	A
<研究概要> 詳細な水位と河床調査に基づいた江の川三川合流部における精度の高い洪水流と河床変動予測モデルの構築，本・支川河道の背水影響区間における河道貯留効果の定量化手法の開発を行う。これらの成果から，本・支川河道からの流出特性が異なる大規模洪水に対する三川合流部の流下能力と河道貯留効果について定量的に評価する。		
<事後評価コメント> 三川合流部における複雑な流れに対し、詳細な解析ができていることから、研究目的は達成され、十分な研究成果があった。 今後、従来の手法との違いを明確にするとともに、より大きな規模の洪水を対象とした解析、河床変動予測精度の向上に努められたい。また同化手法の開発によってさらなる研究の進展が期待される。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い